

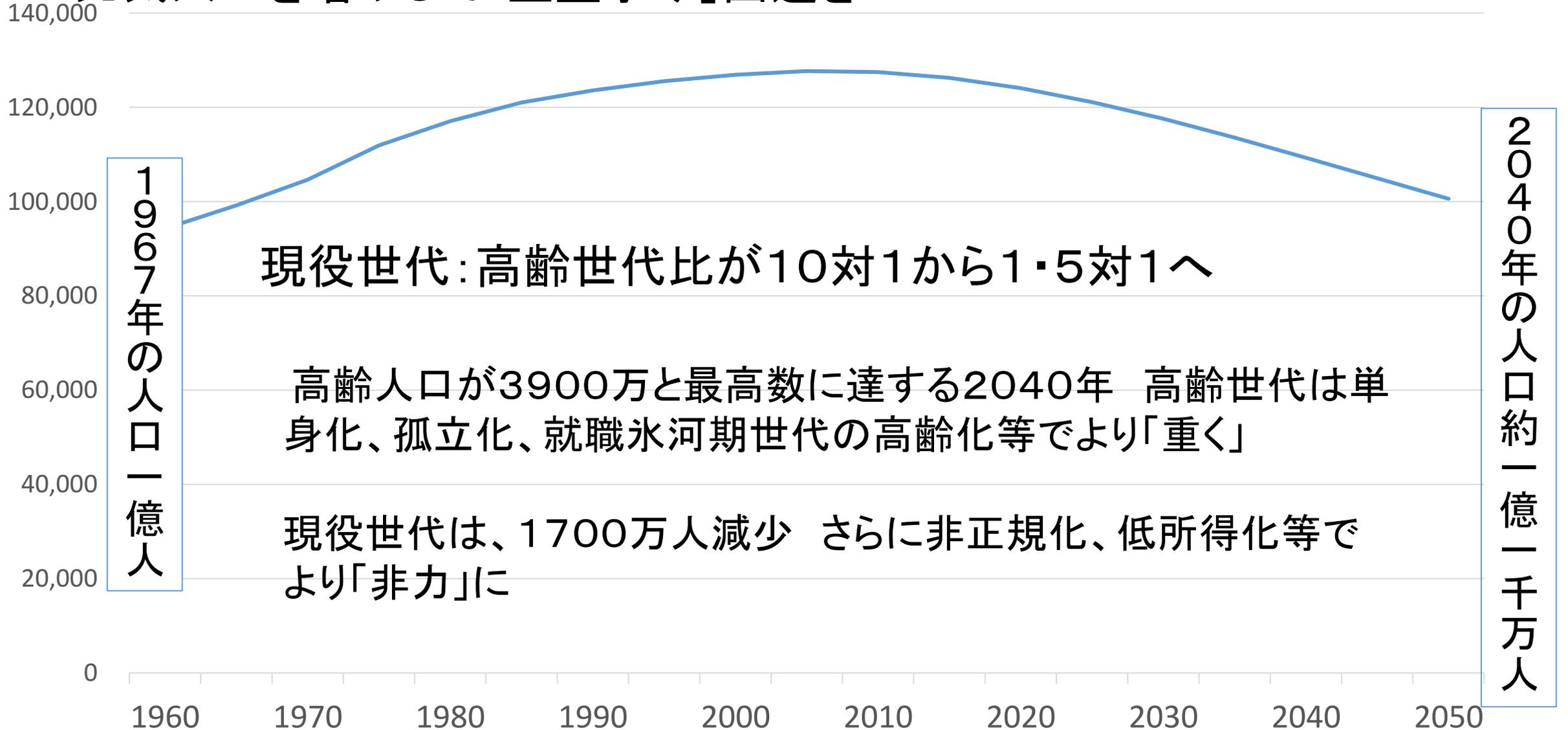
重層的支援体制構築推進 人材養成研修

地域共生社会に向けた重層的支援体制整備事業 その意義と理念



宮本太郎(中央大学)

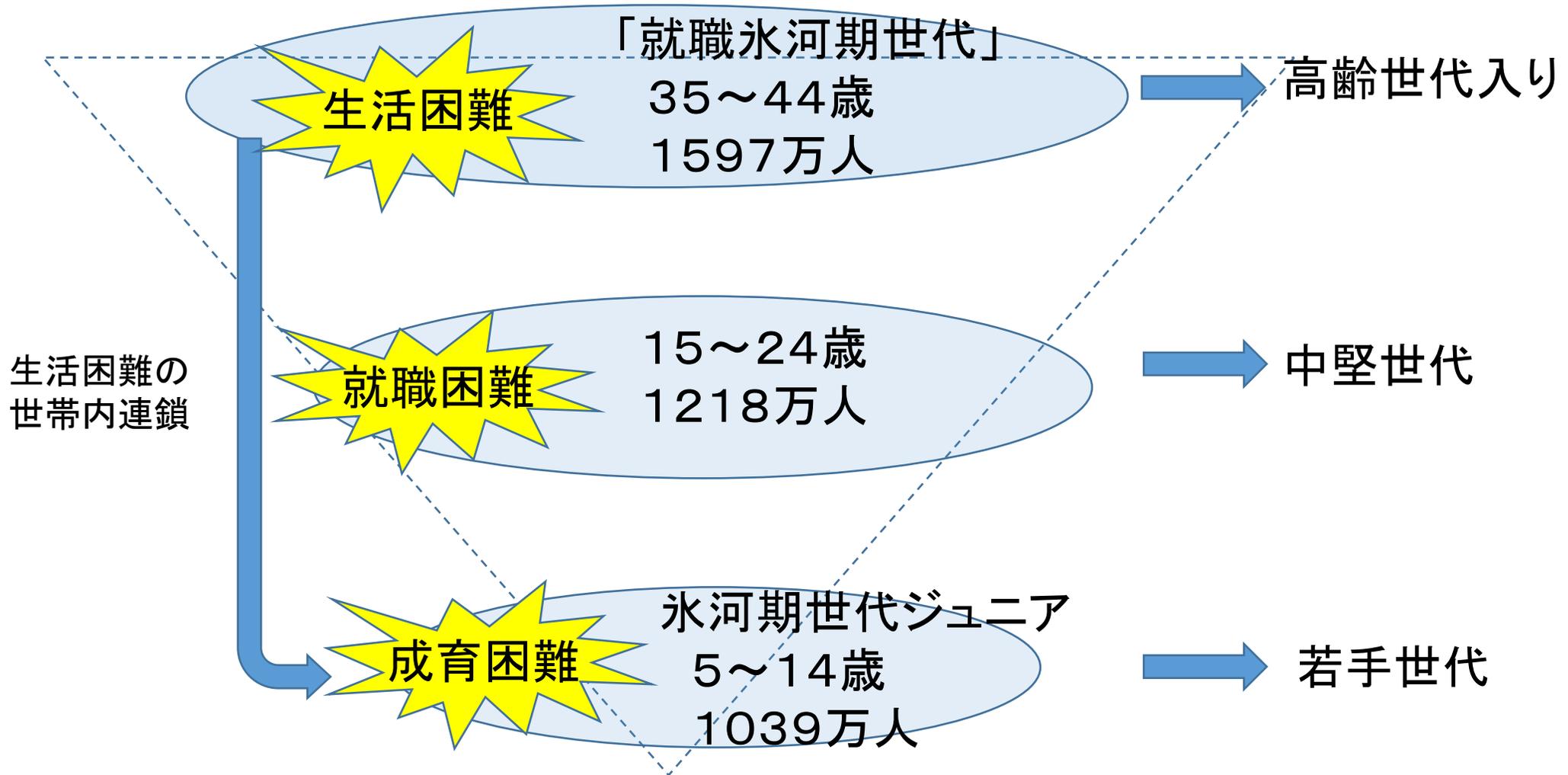
1 なぜ今、地域共生社会か？ 2020年問題の先の2040年問題 元気人口を増やして「重量挙げ」回避を



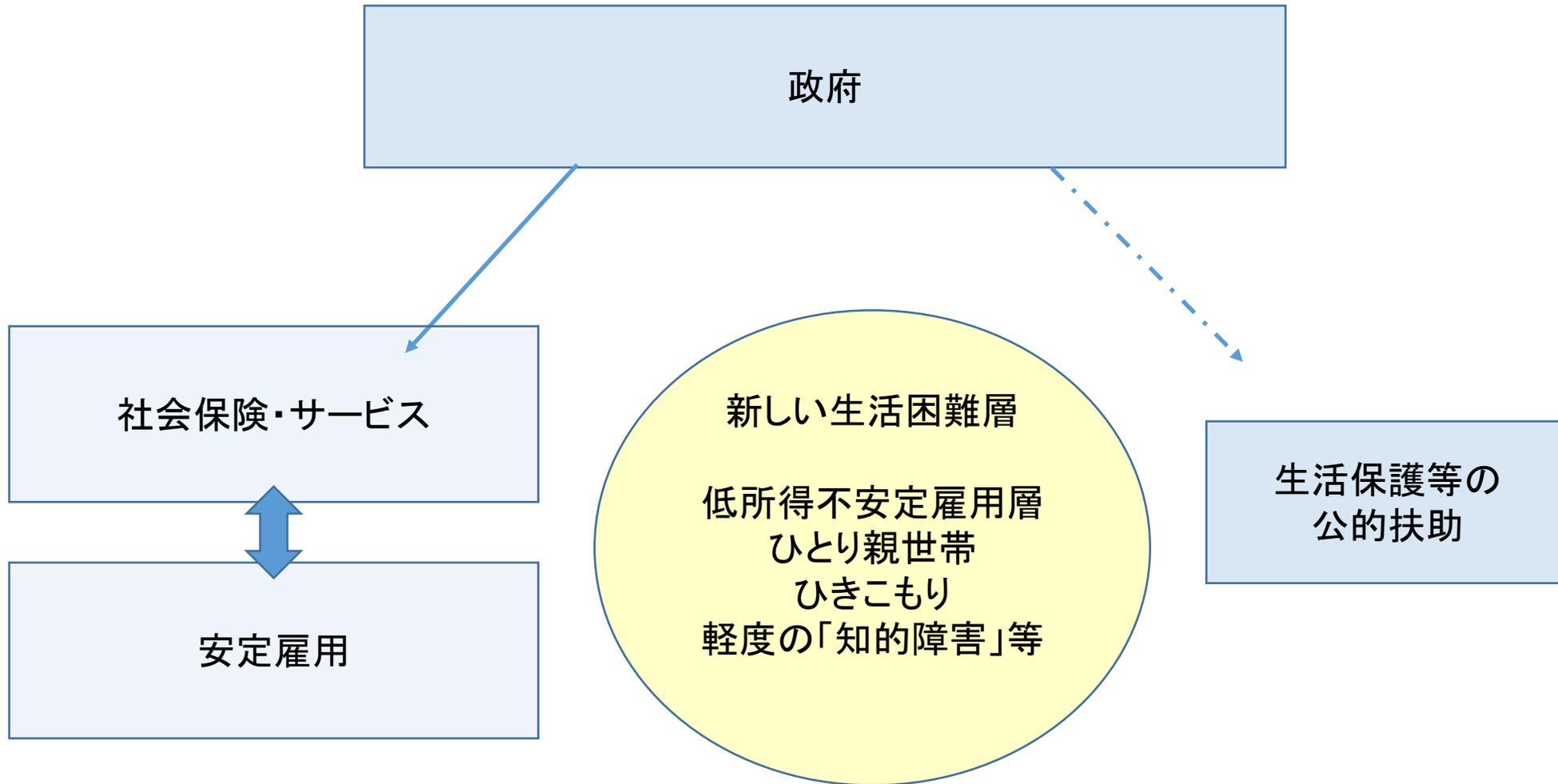
2 2020年(コロナ禍)を超えて2040年へ 逆三角形をさらに弱めてはならない

2020年問題(コロナ禍)

2040年の位置
(高齢世代 3900万)

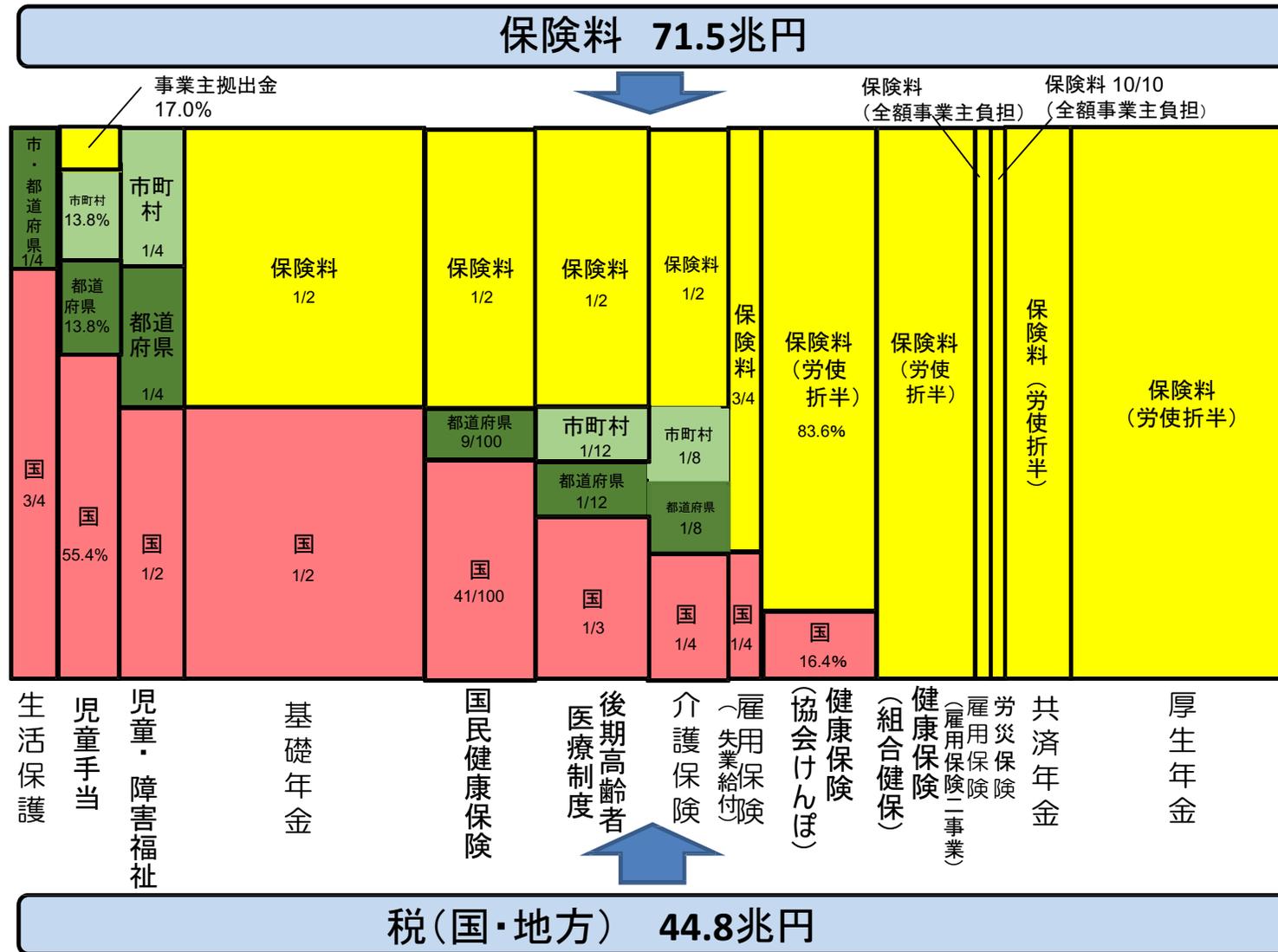


3 いち早く皆保険皆年金を達成したわが国の社会保障だが 「新しい生活困難層」増大



従来の日本型社会保障の強みが裏目に出ている面も

4 日本の社会保障財源 税が社会保険を支える形(2019当初予算)



出所 厚生労働省資料を一部簡略化

5 そもそも元気とは何だろう？

*ピンピン健康であること？ 「PPK・ピンピンコロリ」？ 老いや障害を受け入れつつPPとKの間の長い時間を少しでも輝かせることこそ時代にふさわしい「元気」

*バリバリ働くこと？ メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用に加えてオーダーメイド型雇用(ユニバーサル就労)という選択肢を

6 元気にする処方箋はあるのか？ 「場」につなぐこと

* 厚労省「中高年者縦断調査」による小塩隆士教授の研究 高齢男女のストレス源をめぐる「不思議」

ストレス源のトップは？

ストレス軽減要因は？

* 子育てでもワンオペ育児はストレス源
多くの地域の「こども縁」はストレス軽減要因 ところがストレス源になる場合も

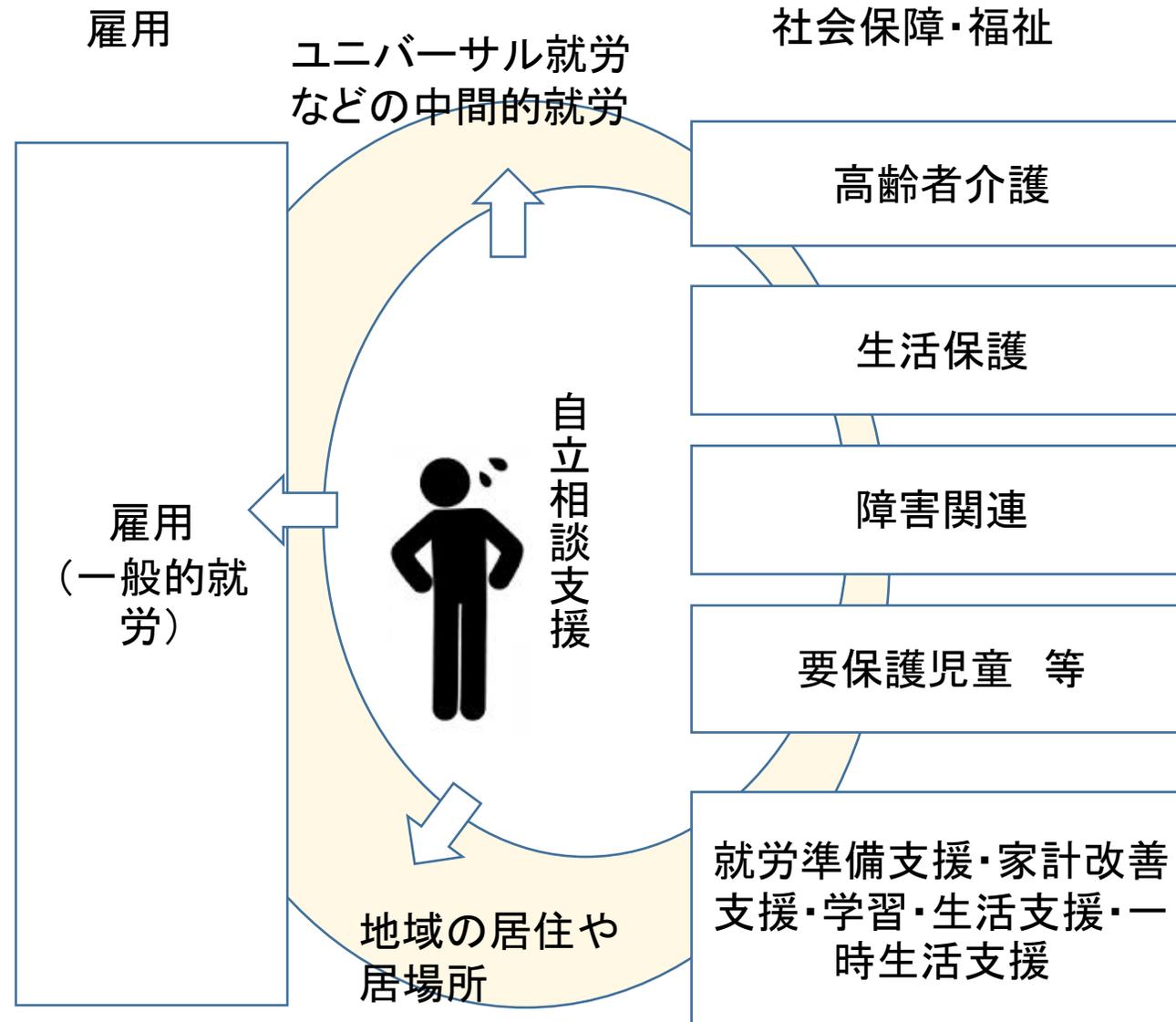
(鳥取県「女性のストレス要因に関する調査結果」)

* 医療、所得、住宅などの支援をテコに「場」につなぐ
つながりの質こそが大事

7 元気人口を増やすには縦割り超える必要

	目標	方法	基準
これまでの の福祉	保護すること	二重の縦割り 雇用と福祉 福祉の縦割り	はっきりした困難
これから の「福祉」	元気になってもらうこと	包括的支援 複合的困難に対処 「場」につなぐ	早期対応が大事

8 元気にする福祉で先行していた生活困窮者自立支援制度

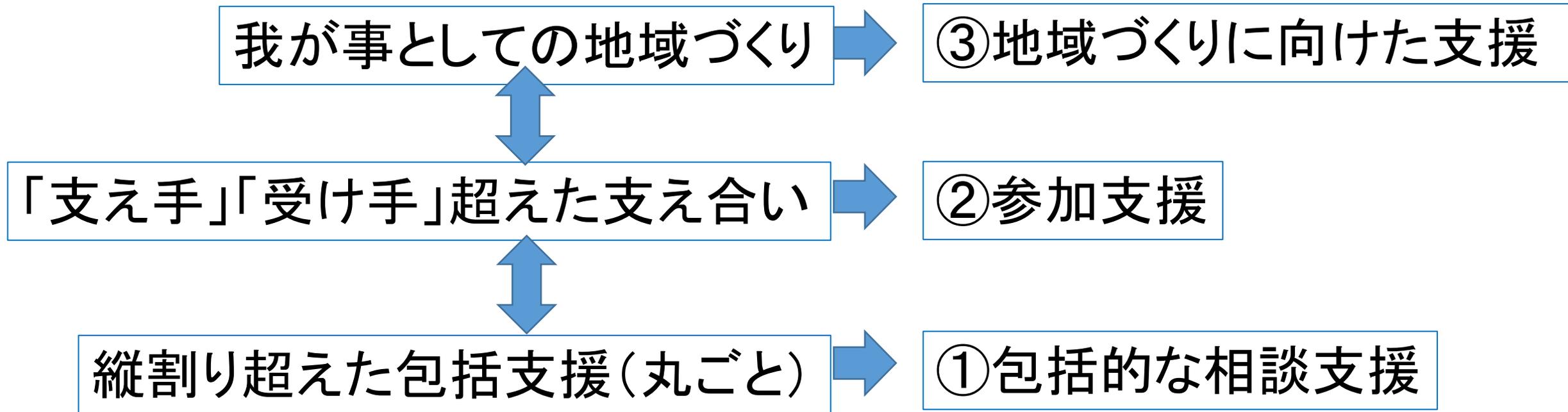


既存制度を補完する任意事業

9 「地域共生社会」とは

- 「制度・分野ごとの①『縦割り』や②「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し(中略)③地域をともに創っていく社会」(「地域共生社会の実現に向けて」2017年2月)

10 地域共生社会の定義と社会福祉法等改正の関係



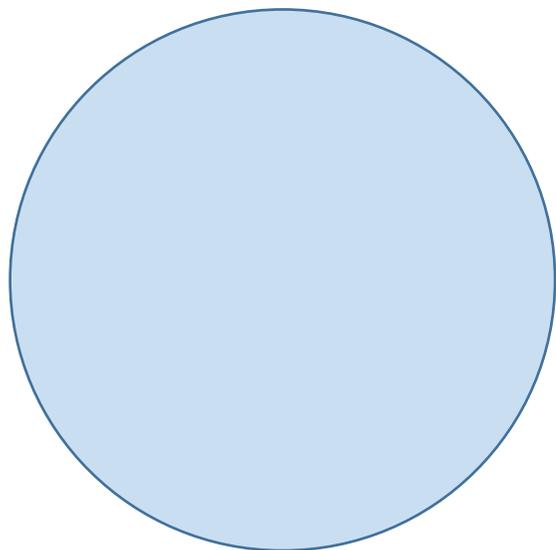
11 昨年の社会福祉法改正 106条4に定められた重層的支援体制整備事業

	機能	既存制度の対象事業等
第1号	相談支援	介護 地域包括支援センター運営 障害 障害者相談支援事業 子ども 利用者支援事業 困窮 自立相談支援事業
第2号	参加支援	新事業
第3号	地域づくり支援	介護 一般介護予防事業(通いの場) 介護 生活支援体制整備事業 障害 地域活動支援センター事業 子ども 地域子育て支援拠点事業 (自治体の独自事業も)
第4号	アウトリーチ等を通じた継続的支援事業	新事業
第5号	多機関協働	新事業
第6号	支援プラン作成	新事業(第5号と一体)

12 地域共生社会の三本柱（重層的支援体制整備6事業との関係）

①相談支援

（相談支援の包括化）



地域包括支援センター、自立相談支援、子育て支援窓口等の連携 庁内連携

アウトリーチ **④アウトリーチ支援**

日常生活圏での「窓口」

②参加支援

（ケース会議包括化・相談と地域づくりつなげる）



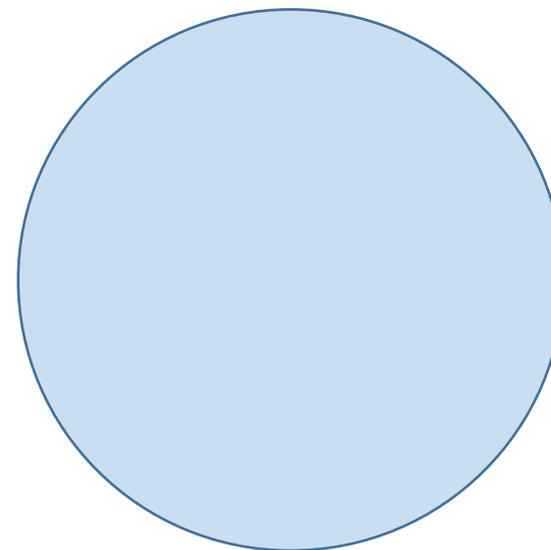
（地域ケア会議、支援会議、自立支援協議会、要保護児童対策協議会、等活用）

⑤多機関協働

⑥支援プラン作成

③地域づくり支援

（地域づくり支援）



間口の広い多様な場づくり
地域が直面する問題解決
共生型・幼老型のケア
オーダーメイド型就労

13 包括的相談支援・参加支援とは？

* 多様な「場」につなげる そのための支援を組み合わせる

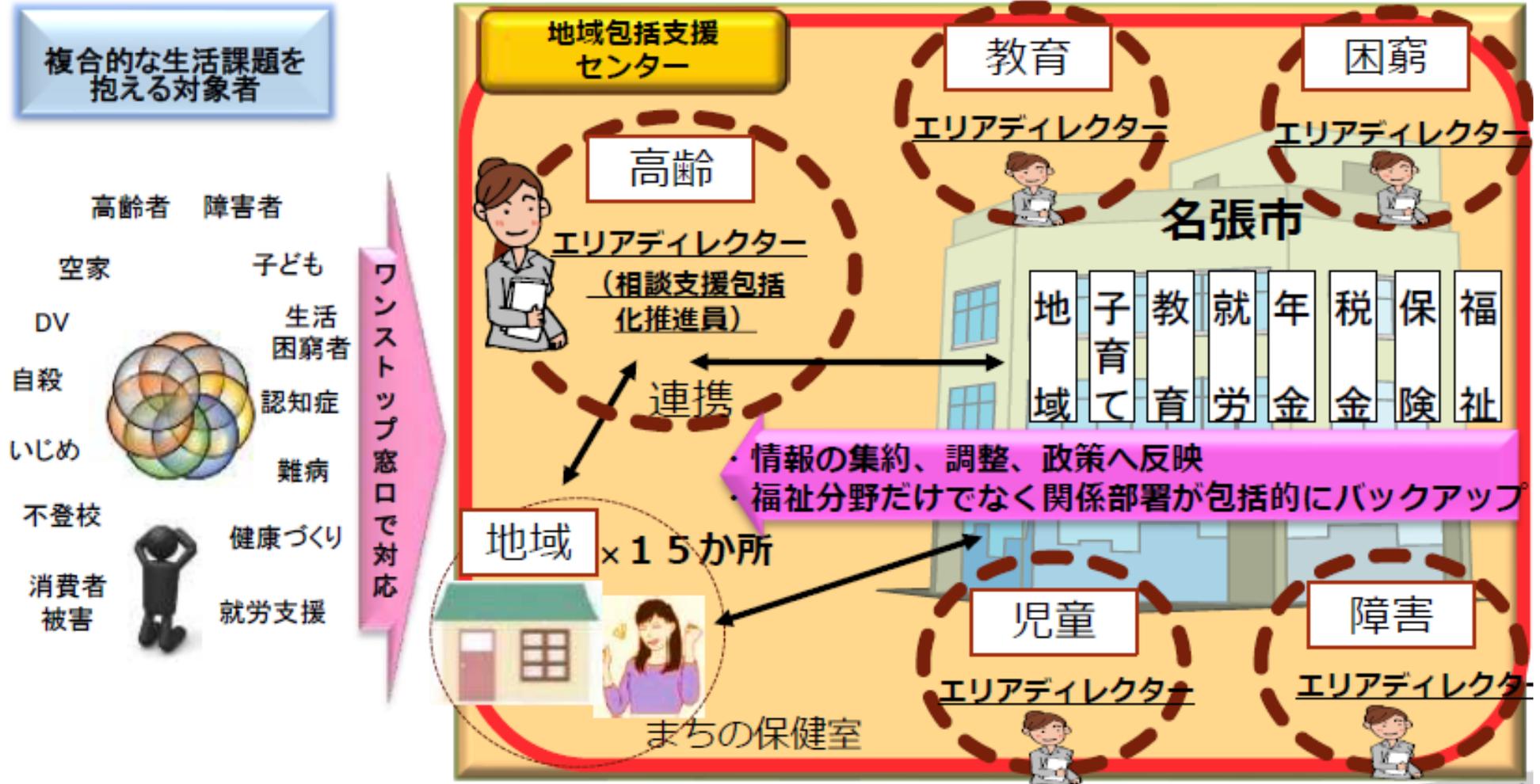
* 当事者の多様な関心(やりたいこと、つながりたい先)は自明ではなく、しばしばつながってみて(働いてみて)、初めて本人も自覚する 伴走型支援の重要性

* 先行例としての介護保険・ケアマネジメント 多様性の包摂のためにも包括的相談支援の場はたくさんあって(あったほうが)よい

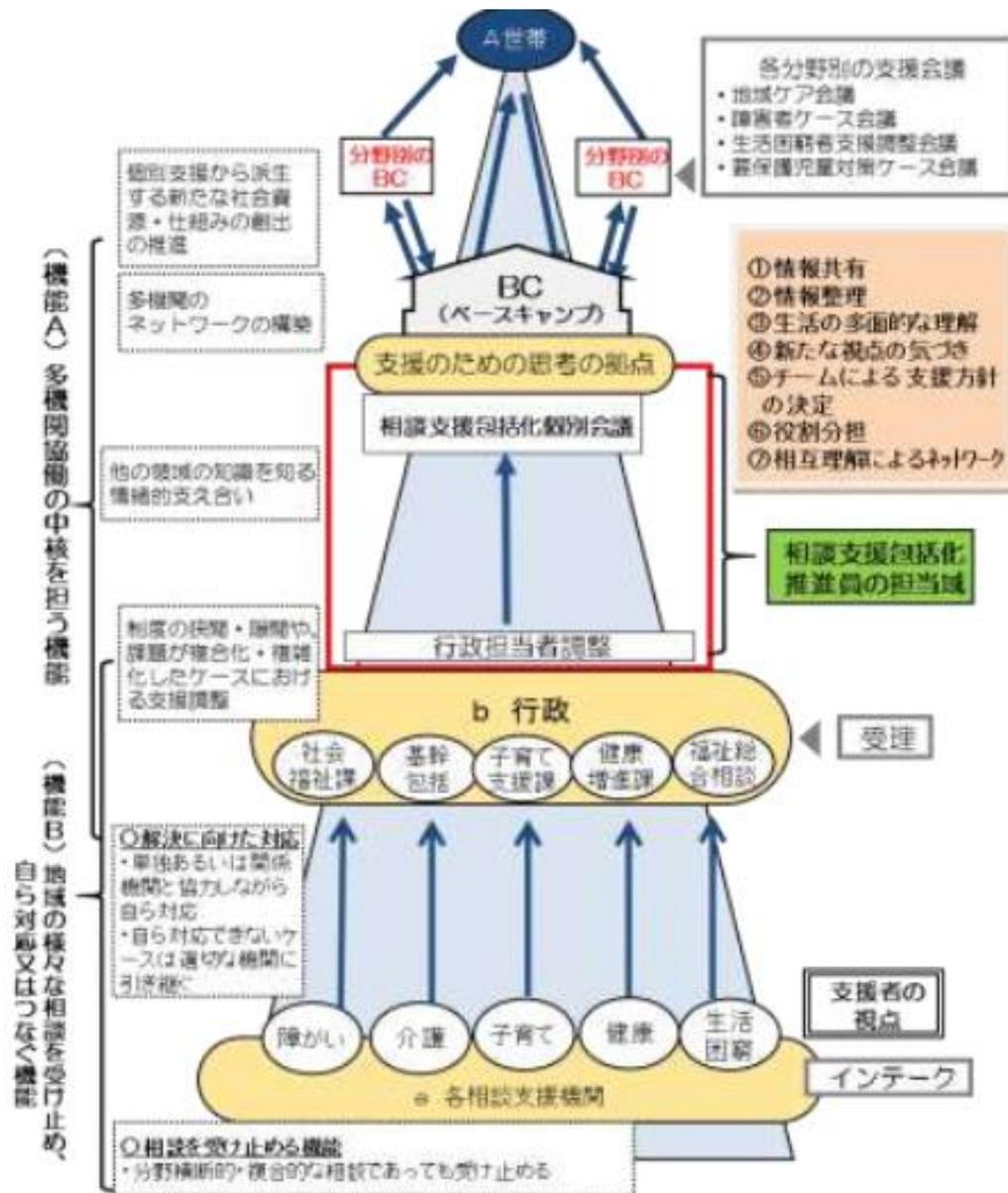
* 生活圏域(小中学校区)にも「入り口」があることが大事 ただし地域の支え合いへの丸投げではだめ 「支え合いが支えられる仕組み」「自助の共助の公助」 三重県名張市、島根県雲南市、富山県富山市の例

14 三重県名張市の包括的な相談支援体制と地域づくり

【名張市の包括的相談支援体制】



15 参加支援におけるケース会議の包括化 福井県坂井市の取り組み



参加支援

包括的相談支援

16 地域づくり支援 元気になる「場」とは

* 多様な「居場所」から就労の場まで当事者が受け身にならない、「ここで認められたいと思えること」「貢献」できることが条件

* 困難を抱えている地域ほど「場」づくりの機会が多い 秋田県藤里町の「ひきこもりでまちづくり」の経験

* 間口の広い多様な働き方へのオーダーメイド型雇用（補完型所得保障との連携も大事）

* 共生型・幼老型のケアなど多様な居場所づくり

17 元気になる「場」づくり 自治体が企業にオーダーメイド型雇用の切り出しを働きかける

* 大阪府豊中市の例 暮らし支援課(旧雇用労働課と旧消費生活課)を中心に無料職業紹介事業: 毎年300~400の企業から受けた求人情報をあえて公開せずに扱う

* 高齢、困窮、保険収納課などの窓口から紹介された人々について、就労体験、業務内容カスタマイズ、定着支援

* 鳥羽市では旅館業の仕事を業務分解しプチ勤務カタログに



鳥羽市のプチ勤務カタログ



豊中市のくらしかん

18 福祉か就労かの境界を越える「場」づくり

* メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用？ もう一つオーダーメイド型雇用という選択肢を

* 町田市のNPO「つながりの開」がおこなう介護保険デイサービス「Days BLG!」 サービスを受給しつつ働き報酬も受ける(右写真)

19 共生型ケア 支える・支えられるを超えることで引き出される力

* 富山型デイサービス(このゆびと一まれ) 1993年に高齢者、障害者、子どもを区別しないで受け入れるデイサービスとしてスタート 縦割りの壁を超えて、人々の新たな支え合いの場として発展

* 障害者雇用(就労継続支援B型)の「はたらくわ」をつなげる

20 元気になる場 高齢者による「幼老」サービス

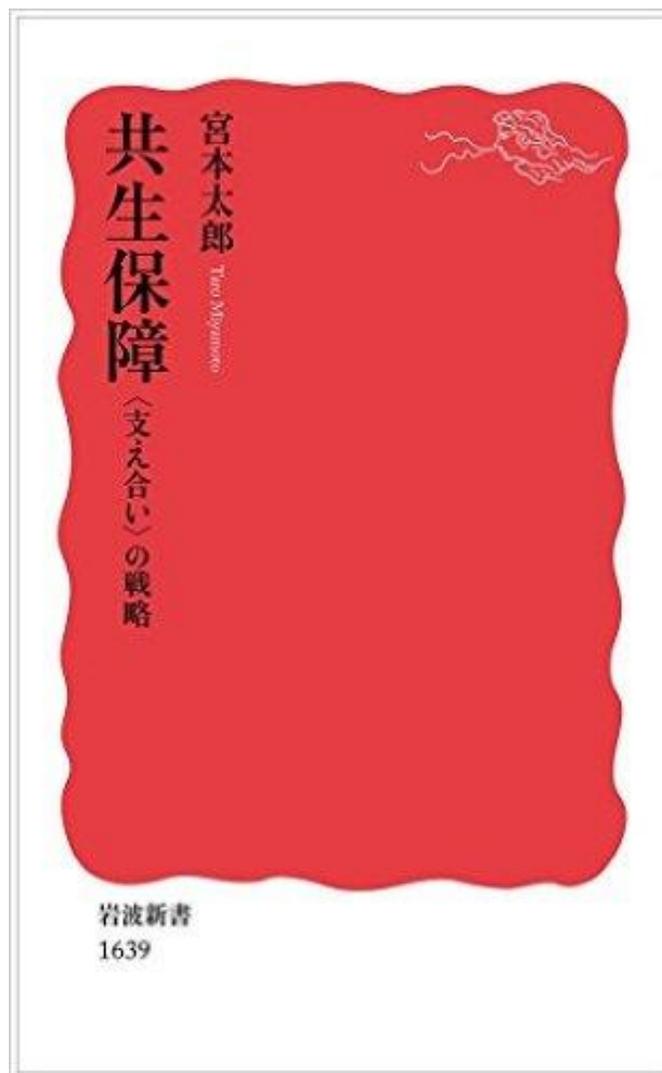
* 高齢者自身の介護予防も兼ねて、子どもの一時預かりや幼稚園の補助業務などへの参加機会を創出する取り組みも増えている

* 千葉県柏市の生きがい就労や、福井市、広島県安芸郡府中町の「シルバーママ」(シルバー人材センター)など

まとめ

- * 地域共生社会や重層的支援体制整備事業に全国共通の青写真はない
- * 包括的相談支援(アウトリーチ事業、生活圏での入り口づくり)、参加支援(多機関協働事業)、地域づくり支援 どこを拠点にするか、どう連携させるかは多様 ご当地モデルを
- * 「縦割り越え」「包括化」は重い課題? 手応えややりがいを感じられるか
たち、事業を担う皆さんが元気に取り組める条件を

ご清聴感謝します



貧困・
介護・
育児の政治

ベーシックアセットの
福祉国家へ

Miyamoto Taro
宮本太郎

広がる生活不安をコロナ禍が追い打ち
やはり福祉政策こそ根本だ
今こそ、ベーシック
アセットの保障へ

第一人者ならではの縦横な
政治分析から見えてくる活路とは

定価：1870円
(本体1700円+税10%)
朝日新聞出版

The promotional graphic has a light blue background. The title is written in large, bold black and blue characters. Below it, the subtitle and author's name are in smaller black text. A block of promotional text in black and blue describes the book's focus on social security and basic assets. At the bottom right, the price and publisher information are provided in small black text.